



The Burrell Collection:  
A voyage to  
Impressionism.  
Vision of  
a great shipowner-collector

印象派への旅 海運王の夢

バレル・コレクション

[報道資料 / Press Release]

# 奇跡の来日 イギリス海運王の贅沢なコレクション

産業革命期に英國随一の海港都市として栄えたグラスゴー出身の海運王ウィリアム・バレル(1861–1958年)。彼は古今東西におよぶ様々なジャンルの芸術作品を集めてコレクションを築き、1944年にグラスゴー市に寄贈しました。

本展では、バレルが収集した良質のフランス絵画を中心に、スコットランドやオランダ人画家の作品をあわせた絵画73点に加え、同市のケルヴィングローヴ美術博物館よりルノワールやゴッホの絵画7点を展示。英国人コレクターならではの視点で収集されたこれらの作品を、「第一章 身の回りの情景」「第二章 戸外に目を向けて」「第三章 川から港、そして外洋へ」という構成で展観し、美術史における写実主義から印象派への流れをたどります。永らく本国でしか見ることのできなかった世界屈指のバレル・コレクションが奇跡の初来日を果たす、貴重な機会。海運王の夢が託された名画を巡りながら、印象派への旅に誘います。

## 展覧会情報

### 会期会場

2018年10月12日–12月9日

福岡県立美術館

2018年12月19日–2019年3月24日

愛媛県美術館

2019年4月27日–6月30日

Bunkamura ザ・ミュージアム

2019年8月7日–10月20日

静岡市美術館

2019年11月2日–2020年1月26日

広島県立美術館(予定)

### 主催

各会場、毎日新聞社など



ウィリアム・バレル卿

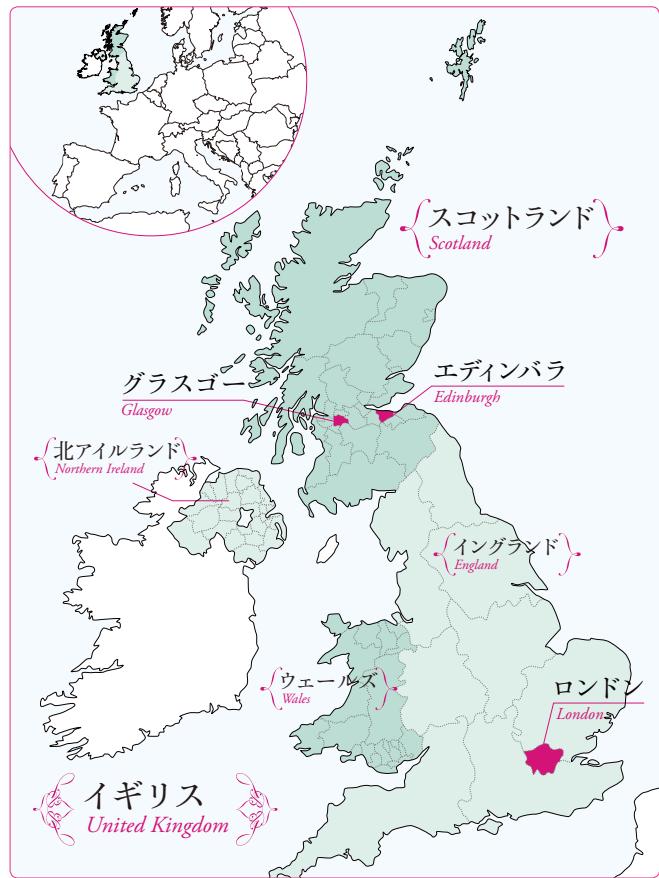
## 海運王 ウィリアム・バレル(1861–1958年)とバレル・コレクション

ウィリアム・バレルは1861年に英國、スコットランドの海港都市グラスゴーに9人兄弟の三男として生まれた。15歳で家業の艦装業(各種装備などを船体に取り付ける作業)を手伝い始め、24歳で父親の跡を継ぐ。その後、船舶の売買で大成功し「海運王」と称された。

当時、英國随一の海港都市として経済成長が著しかったグラスゴーでは、美術品市場も活況となっていた。バレルも少年の頃から美術品に関心を持って収集を始めており、1890年代から1920年代にかけて、グラスゴー出身の画商アレクサンダー・リード\*(1854–1928年)から作品を購入。5000年に及ぶ古今東西の美術工芸品を収集した。

1944年、バレルはコレクションのうち9000点以上の作品をグラスゴー市に寄贈。その条件として、当時深刻な社会問題であった大気汚染の影響が少ない郊外にコレクションの作品を展示すること、また英国外には貸し出さないことが提示された。1983年にグラスゴー市は郊外のポロック公園内にコレクションを移し、バレル・コレクション(The Burrell Collection)として一般公開。以降、近代名画を集めた世界屈指のコレクションと称され多くの観光客が訪れている。同館は2015年から2020年まで改修工事により閉館しているため、英国外への作品の貸し出しが可能になり、海を越えて本展の開催が実現した。

\*アレクサンダー・リード：パリにいた頃に画家フィンセント・ファン・ゴッホの弟テオと親交があつたこともあり、バレルのようなグラスゴー在住の美術愛好家たちに同時代のフランス美術を紹介した人物。バレルはリードについて、「良質な絵画作品とそれを愛する心をスコットランドにもたらした功労者である」と述懐している。



# 本展の見どころ

## 1 世界屈指のコレクション 初来日

本国のバレル・コレクションが閉館中のため実現した、日本での本展開催。出品作品80点のうち76点は日本初公開の名画が勢揃い!

## 2 知られざるドガの傑作 《リハーサル》初来日

繊細かつ大胆な構図と色彩が美しい本作品。2016年にオーストラリアで開催され、世界70以上の美術館から出品されたドガの大回顧展(*Degas. A New Vision*)の図録では表紙を飾った、世界が認める名作。



エドガー・ドガ《リハーサル》  
1874年頃、油彩・カンヴァス 58.4×83.8cm  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection

## 3 バレルにフランス美術を 紹介した画商の肖像画

英国内のフランス美術コレクションの礎を築き、バレル・コレクションの形成に尽力した敏腕画商、アレクサンダー・リード。彼と親交のあった巨匠ゴッホが描いた肖像画を紹介。



フィンセント・ファン・ゴッホ《アレクサンダー・リードの肖像》  
1887年、油彩・板 42×33 cm、ケルヴィングローヴ美術博物館蔵  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection

### [バレル・コレクションからの出品作品(73点)について]

バレルの出身地・グラスゴーが位置するスコットランドは、イングランドではなくフランスと歴史的に結びついていたため、文化的見てもフランス美術の影響を受けた画家が活躍していました。こうした画家には、「スコティッシュ・カラリスト\*」と呼ばれる4人の画家のひとりでパリの美術学校アカデミー・ジュリアンで学んだサミュエル・ジョン・ペプローや、画家ジャン=フランソワ・ミレーを中心とするバルビゾン派やヤーコブ・マリスに代表されるハーグ派に影響を受けた「グラスゴー・ボーイズ」のひとり、アーサー・メルヴィルが挙げられます。本展ではこうしたスコットランドの画家をはじめ、彼らに影響を与えたミレーやマリスの作品を紹介します。

\* スコティッシュ・カラリスト(Scottish Colorist): 印象派やフォービスマの画風を学んだスコットランドの画家の一派。明るく鮮明な色彩を多用する。

### [ケルヴィングローヴ美術博物館からの出品作品(7点)について]

本展ではフィンセント・ファン・ゴッホ作《アレクサンダー・リードの肖像》に加え、バレルと同時代にグラスゴーの海運業で財を成したウィリアム・マキネスが、画商リードから購入した絵画作品6点をあわせて展示します。そのうち3点が日本初公開です。



ギュスターヴ・クールベ《マドモワゼル・オープ・ドゥ・ラ・オルド》  
1865年、油彩・カンヴァス 92.1×73.7 cm  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection

# 展覧会構成

1916年、海運王として財を成したウィリアム・バレルは、スコットランドとイングランドの国境にあった自宅であるハットン城にも作品を収蔵し、自身のコレクションに囲まれながら暮らしました。そうしたバレルの自慢の絵画群を次のような構成で展覧します。

## 序章

### Introduction

英国の海港都市グラスゴーと、海運王と呼ばれ美術コレクションを築いたウィリアム・バレルの人物像やその生涯を当時の写真や、親交のあった画商の肖像画(ゴッホ作)などを通して紹介します。



ウィリアム・バレル卿(45歳頃)  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



ハットン城(1915年頃)  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection

フィンセント・ファン・ゴッホ  
《アレクサンダー・リードの肖像》

1887年、油彩・板 42×33 cm、ケルヴィングローヴ美術博物館蔵  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



## 1 第一章

### 身の回りの情景

#### Intimate Scenes

##### 1-1 室内の情景 Interior Scenes

フランソワ・ボンヴァン  
《スピネットを弾く女性》  
1862年、油彩・カンヴァス 43.8×33.6 cm  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



人物、果物、花など、部屋の中の静謐かつ親密な情景が描かれた作品群。

##### 1-2 静物 Still Life

エドウアル・マネ  
《シャンパングラスのバラ》  
1882年、油彩・カンヴァス 32.4×24.8 cm  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



アンリ・ファンタン=ラトゥール《春の花》  
1878年、油彩・カンヴァス 29.2×24.1 cm  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



## 2 第二章 戸外に目を向けて *People's Lives and Surroundings*

家の外、街中、郊外へと戸外に広く目を向けて、その景色や、生活・仕事を営む人々、動物を描いた作品群。

### 2-1 街中で *In the Town*

ウジェーヌ・ブーダン《ブリュッセル、旧魚市場》

1871年、油彩・板 25.7×46.3cm  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



ジョゼフ・クロホール《二輪馬車》

1894-1900年頃、水彩、グワッシュ・麻布 30.5×36.8cm  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



エドガー・ドガ《リハーサル》

1874年頃、油彩・カンヴァス 58.4×83.8cm  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



## 2-2 郊外へ *To the Countryside*

カミュー・コロー《フォンテヌブローの農家》

1865-73年頃、油彩・カンヴァス 55.9×46.3cm

© CSG CIC Glasgow Museums Collection



ポール・セザンヌ《エトワール山稜とピロン・デュ・ロワ峰》

1878-79年、油彩・カンヴァス 49.2×59cm、ケルヴィングローヴ美術博物館蔵

© CSG CIC Glasgow Museums Collection



ピエール・オーギュスト・ルノワール《画家の庭》

1903年頃、油彩・カンヴァス 33.2×46cm、ケルヴィングローヴ美術博物館蔵

© CSG CIC Glasgow Museums Collection

## 3 第三章 川から港、そして外洋へ *From River to Ocean*

海運王と呼ばれ、港や海への想いが  
人一倍強いであろうバレルが選んだ  
海景画を中心とした水辺の景観の  
作品群。



### 3-1 川辺の風景 *River Side*

シャルル=フランソワ・ドービニー  
《ガイヤール城》

1870-74年頃、油彩・板 38.1×68.6cm

© CSG CIC Glasgow Museums Collection



3-2 外洋への旅 *Voyage to Ocean*

ウジェーヌ・ブーダン

《トゥルーヴィルの海岸の皇后ウジェニー》

1863年、油彩・板 34.3×57.8 cm

© CSG CIC Glasgow Museums Collection



アンリ・ル・シダネル《月明かりの入り江》

1928年、油彩・カンヴァス 64.5×81.3cm

© CSG CIC Glasgow Museums Collection



カミュー・コロー《船舶 (ル・アーヴルまたはオンフルール)》

1830-40年頃、油彩・紙、板 17.1×27.3cm

© CSG CIC Glasgow Museums Collection



ウジェーヌ・ブーダン《ドーヴィル、波止場》  
1891年、油彩・板 27.9×21.9cm  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection

表面：エドガー・ドガ《リハーサル》(部分)  
1874年頃、油彩・カンヴァス 58.4×83.8cm  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection

お問合せ

毎日新聞社 事業本部 TEL: 03-3212-0189

東京展(Bunkamura ザ・ミュージアム) 広報事務局(株式会社ミューズ・ピアール内) 担当: 大山・奥村・望月

〒107-0052 東京都港区赤坂9-1-7 赤坂レジデンシャル770 TEL: 03-6804-5045 FAX: 03-5785-2627 E-mail: info@musepr.co.jp